

らふばい科

第 1612 圖



らふばい (蠟梅) 古名 からうめ
Meratia praecox Rehd. et Wils.

(=Calycanthus praecox L.;
Chimonanthus praecox K. Koch.)
本品は後水尾天皇ノ朝ニ始メテ朝鮮ヨリ來レル支那
原産ノ落葉灌木ニシテ觀賞花木トシテ通常人家ニ栽
植セラレ高サ2-4m許、幹ハ叢生シテ分枝ス。葉ハ有
柄、對生シ、卵形、銳尖頭、全邊、長サ15cm内外、質稍
薄クシテ硬ク葉面結晶シ、羽狀脈ヲ有ス。一二月ノ候
葉ニ先ヅテ馨香アル花ヲ開キ個々枝上ノ節ニ密接
下向シテ着生シ花徑凡2cm内外アリ。花被ハ多數ニシ
テ小形ノ内層片ハ暗紫色、大形ノ中層片ハ黄色、薄
クシテ稍光澤アリ、下層ニテハ多數ノ細鱗片ト成ル。
五-六雄蕊、藥ハ外向ス。雌蕊ハ多數ニシテ壺狀花托
内ニ位シ花托ノ邊緣ニハ不育雄蕊ヲ具フ。子房ハ一室
ニシテ一卵子ヲ有シ柱頭ハ單形。花後花托ハ成長増大
シテ長卵形ノ偽果ヲ成シ内部ニ一乃至四顆ノ深紫褐
色長橢圓形ノ瘦果ヲ容レ、種子ハ無胚乳、子葉ハ葉狀
ニシテ卷旋ス。種中ニテ花瓣闊ク花容豊カナルヲた
うらふばい即チ漢名檀香梅 (var. grandiflora Rehd.
et Wils.) ト云ヒ、花瓣普通品 (var. typica Makino)
ヨリ稍闊クたうらふばいヨリ稍狹キ者ヲかくわばい
即チ漢名荷花梅 (var. intermedia Makino) ト云ヒ、
花全體黄色ノ者ヲそしんらふばい即チ漢名素心蠟梅
(var. lutea Makino) ト云フ。和名ハ蠟梅 (蠟梅ハ非
ノ字音、唐梅ハ支那ヨリ來リシ梅ノ義ナリ。

第 1613 圖



さねかつら
一名 びなんかつら
古名 さなかつら
Kadsura japonica Dunal.
(=Uvara japonica Thunb.)

諸州ノ山地ニ生ジ又時ニ庭樹トシテ人家ニ栽培セラ
ル常緑纏繞藤本ナリ。老莖ハ徑凡2cm内外ニ達シ褐
色柔軟ナル厚栓皮質ノ外皮ヲ具ヘ、枝條ハ其皮ニ粘液
ヲ含ム。葉ハ有柄ニシテ互生シ托葉無ク、長橢圓形ニ
シテ尖リ疎ニ小歯牙ヲ有シ質軟厚ニシテ表面光澤アリ
裏面ハ往々紫色ヲ帯ブ。夏月淡黄白色ノ腋生有梗花
ヲ垂下シテ開キ花徑1.5cm許アリ。雌雄別株。花被片
ハ九乃至十五箇ニシテ萼花弁ノ區別不明ナリ。雄蕊并
ニ雌蕊共ニ多數相集リ小球狀ヲ成ス。漿果ハ徑凡5mm
許ノ小球形ヲ呈シ膨大シテ頭狀ヲ成セル花托ノ周圍
面ニ着生シ秋期花托ト共ニ紅熟ス。和名實葛ノ按ズル
ニ其果實特ニ美ニシテ著シケレバ云フ、さねかつら實ノ
事ナリ、一説ニさねかつらハ古名さなかつらノ音轉ニ
シテさなかつらハ滑り葛(なめりかつら)ノ意、其さハ
發語ナハ滑(なめ)ノナナリト謂ヘリ、美男葛ハ其枝皮
ノ粘汁ヲ水ニ浸出シテ頭髮ヲ梳ル故云フ。漢名 南
五味子 (誤用)

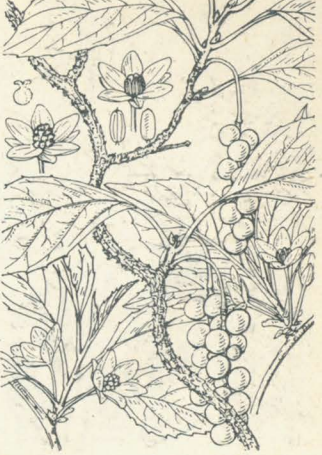
第 1614 圖



まつぶさ
一名 うしぶだう
Schizandra nigra Maxim.

諸州ノ山地ニ見ル落葉纏繞藤本ニシテ莖ハ長ク
伸長シ疎ニ分枝シ切レバ微シク松氣アリ。葉ハ
有柄互生シテ托葉ナク、卵形或ハ廣橢圓形ニシ
テ短ク尖リ葉緣ニ低キ疎齒牙ヲ具ヘ或ハ全邊ニ
シテ波狀ヲ成シ長サ5-8cm内外、短枝ノ上ニ數
葉宛相集ル、質厚軟ニシテ上面綠色下面淡綠色、
一變種ニ葉裏帶白色ノ者アリ、之レヲうらじろ
まつぶさ (var. hypoglauca Makino) ト云フ。初
夏ノ候、枝上ニ細長ナル花梗ヲ腋生シ淡黄白色
ノ小花ヲ垂下ス。雌雄異株ニシテ花ニ雌雄アリ。
萼・花瓣ノ區別無ク、九或ハ十片アリテ内方ノ者
大形ナリ。雄花ニハ肥厚セル數雄蕊。雌花ニハ
多數ノ雌蕊ヲ有シ結實スルニ及ベバ花托ハ著シ
ク延長シ漿果ヲ着ケテ穗狀ヲ成シ下垂ス。漿果
ハ秋季ニ成熟シ球形ニシテ藍黑色ヲ呈シ二種子
ヲ藏ス。和名ハ松房ニシテ其蔓ヲ傷レバ松氣ア
リ、而シテ其實ハ房ヲ成シテ下垂スル故云フ、
牛葡萄ハ其實熟スレバ黑色ヲ呈スルヨリ云フ。

第 1615 圖



もくれん科

てうせんごみし (五味子)
Schizandra chinensis Baill.

(=Maximowiczia chinensis Turcz.)
享保年間ニ朝鮮ヨリ種子ヲ傳ヘシト雖ドモ明治
年間我邦ノ山地ニモ亦自生アルヲ知リシ落葉纏
繞藤本。莖ハ著シキ長サニハ達セズシテ疎ニ分
枝シ褐色ヲ呈ス。葉ハ有柄互生シ、橢圓形・卵狀
橢圓形或ハ卵形ニシテ長サ5-8cm、先端ハ銳尖
形、底部ハ銳形、邊緣ニハ疎ナル腺狀鋸齒ヲ具
スルノ狀アリ。六七月頃、一見葉腋即チ新條基部
ノ鱗片腋ニ黄白花ヲ單生ス。雌雄異株。花ハ細
長ナル花梗ヲ有シテ稍下垂シ徑1cm、廣鐘形ヲ
呈ス。花被ハ概ネ九片アリテ卵狀橢圓形ナリ。
雄花ニハ六雄蕊中央ニ並立シ、雌花ノ雌蕊ハ多
數集合シテ圓キ花托上ニ排列ス。果實ト成ルニ
及ンデ花托ハ伸長シテ穗狀ヲ呈シ小紅實ヲ着
ク。球ニ大小アリテまつぶさノ同大ナルト異ナ
レリ。和名ハ初メ朝鮮ヨリ來ル故ニ朝鮮五味子
ト呼ベリ、五味子トハ其實ノ皮ト肉トハ甘酸、
核中ハ辛苦、其全體ニハ鹹味アルヲ以テ云フ。

しきみ

一名 はなのき 古名 さかき(?)
Illicium religiosum Sieb. et Zucc.
(=I. anisatum L. pro parte.)

諸州ノ山林中ニ生ズル常緑小喬木ニシテ又通常墓地
等ニモ栽植セララルルヲ見ル。幹ハ高サ3-5m許アリテ
直立シ稍車輪輪 分枝シ葉繁クシテ鬱蒼タリ。葉ハ
互生シ長橢圓形或ハ倒卵狀廣披針形ニシテ兩端尖リ
全邊ニシテ質厚ク平滑ナリ、長サ8cm内外、短柄アリ。
葉ヲ傷レバ香氣アリ。四月ノ候小枝上ノ葉腋ヨリ短
花梗ヲ出シテ梗端ニ淡黄白色ノ兩全花ヲ開キ花徑凡
2.5cmアリ、花瓣ニ微シク紅色ヲ帯ブル者アリ、又花
梗ハ早落性ノ鱗狀苞アリ。花瓣及萼片ハ線狀長橢圓
形ニシテ十二片許アリ、雄蕊ハ多數ニシテ花絲ハ肥厚
ス。花心ニ輪狀ニ排列セル心皮八乃至十二箇アリ。
秋月、其數萼葉星狀ニ排ビ徑2-2.5cm許アリ外部漿質
内皮硬質ニシテ核様ヲ成シ熟スレバ各内縫線ニ沿テ
開裂シ滑澤黄色ノ一種子ヲ彈出ス。有毒植物ノ一。生
枝ヲ佛前ニ供シ、葉ニテ抹香ヲ製ス。和名しきみハ其
果實有毒ナレバ惡シキ實ノ意ニテ此ニあノ略セラレ
タルナリト云フ、一説ニしきみハ臭き實ノ意ヲ示シシ
ハクシノ約ニシテくさ即チ臭ニ通ズト謂ヘリ、又一説
ニ重實即チしきみノ意ニシテ其實枝上ニ重ゲク着ク
故云フナラント謂ヘリ、花ノ木トハ花ノ代リニ墓前或
ハ佛前ニ供スルヨリ云フト謂フ、往古さかきト稱セシ
ハ本種ナリト謂フ説アリ。漢名 莽草 (誤用)

第 1616 圖



もくれん科

ゆりのき

一名 はんでんぼく
Liriodendron tulipifera L.

明治初年ニ始メテ渡來シ爾後或ハ觀賞ノ爲メ或
ハ街路樹トシテ栽植セララル落葉喬木ニシテ元
來北米ノ原産ナリ。幹ハ直立分枝シテ高大ニ成
長シ高サ13m許ニ及ブ。葉ハ長柄ヲ有シテ互生
シ、先端ハ截形或ハ稍凹端、底部ハ二或ハ四裂
シ、淡綠色ヲ呈シ葉質薄クシテ硬ク無毛ニシテ
微ニ香氣アリ、長サ15cm内外アリ。托葉ハ大形
ニシテ其直上部ノ嫩芽ヲ包擁ス。初夏ノ候ニ及
ンデ枝端ニ帶綠黄色ノ大形花ヲ單生シ花徑凡
6cmアリ。萼ハ三片アリ、花瓣ハ六片ニシテ長橢
圓形ヲ成ス。雄蕊ハ多數ニシテ外向葯ヲ有シ葯
ノ部ハ長サ2cmヲ超ユ。心皮ハ多數花托ニ密着
シ花後長サ7cmニ達シ熟スレバ相離レテ先端ハ
長キ翅ヲ成シ、中ニ一或ハ二種子ヲ藏ス。和名
百合ノ木ハ其屬名并ニ Tulip-tree ニ基キテ名
ク、即チ其花容ノ相似ヨリ斯ク爲セシナリ、は
んでんぼくハ其葉形はおりニ似タル半纏ノ形ニ
類スルヨリ云ヘリ。

第 1617 圖



もくれん科